

県別 大学進学「流入 v.s.流出」 37 県で流出超過！

地方創生と大学進学。大学進学で若者が出て行く！

(株)旺文社 教育情報センター 28 年 9 月

「地方創生」が叫ばれる今、各地域における人口減少は非常に大きな問題だ。人口移動が起る大きな契機は、特に「進学」「就職」時と推察される。

本稿ではこのうち「進学」に焦点を当て、文部科学省の『学校基本調査』を基に、大学進学時における学生の都道府県別の流出入、および地元進学について分析を行った。

※本稿の表・グラフはすべて…

- ・文部科学省「学校基本調査」を基に旺文社が算出。2016 年は速報値、ほかは確定値。
- ・大学進学者のみ集計。割合は各県の大学進学者におけるもの。
- ・都道府県は、「出身高校の所在地→進学先の大学学部の所在地」で集計。

1. 「入ってくる方が多い」のか、「出て行く方が多い」のか

●各県の大学進学者「流入者数－流出者数」

流出超過の県

都道府県	H.13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	都道府県
北海道	-387	-328	-497	-498	-760	-740	-1,139	-1,663	-1,955	-1,495	-1,954	-1,341	-1,516	-1,573	-1,532	-1,838	北海道
青森	-1,841	-1,796	-1,918	-1,920	-1,890	-1,995	-2,169	-2,180	-2,004	-1,993	-1,900	-1,931	-1,827	-1,825	-1,773	-1,640	青森
岩手	-2,458	-2,257	-2,299	-2,193	-2,256	-2,375	-2,155	-2,172	-2,293	-2,229	-2,160	-2,136	-2,064	-2,073	-1,970	-2,154	岩手
宮城	1,411	1,110	1,429	1,608	1,541	1,601	1,583	1,620	1,734	1,508	1,976	1,394	1,388	1,325	1,437	1,457	宮城
秋田	-2,373	-2,357	-2,395	-2,096	-2,159	-2,093	-2,144	-2,252	-2,119	-2,169	-2,066	-1,935	-1,805	-1,766	-1,591	-1,527	秋田
山形	-1,925	-2,042	-2,218	-2,101	-2,296	-2,322	-2,510	-2,422	-2,222	-2,222	-2,180	-2,062	-1,958	-1,759	-1,700	-1,418	山形
福島	-4,509	-4,365	-4,564	-4,550	-4,725	-4,745	-4,996	-4,779	-4,534	-5,055	-4,552	-5,080	-4,628	-4,596	-4,379	-4,415	福島
茨城	-7,291	-7,410	-7,246	-7,087	-7,069	-6,994	-8,119	-8,169	-8,148	-8,191	-8,023	-8,058	-7,591	-7,736	-7,566	-7,588	茨城
栃木	-5,097	-4,990	-5,084	-5,008	-4,800	-5,303	-5,248	-5,235	-5,170	-5,036	-4,857	-4,607	-4,823	-4,416	-4,440	-4,752	栃木
群馬	-3,822	-3,940	-3,803	-3,247	-3,493	-3,308	-3,373	-3,135	-3,161	-2,587	-2,578	-2,436	-2,532	-2,442	-2,650	-2,839	群馬
埼玉	8,032	8,177	7,709	7,482	4,155	3,593	2,668	2,026	1,592	876	-441	-1,224	-1,066	-989	-2,511	-3,061	埼玉
千葉	2,340	1,861	3,040	3,801	2,475	1,183	1,184	258	-20	-982	-815	-1,324	-2,028	-2,587	-3,430	-3,072	千葉
東京	60,633	62,024	60,284	56,254	61,607	61,672	66,454	67,585	67,620	69,109	67,408	66,597	69,687	70,635	72,318	73,821	東京
神奈川	12,922	13,647	13,599	13,361	12,264	13,199	13,235	13,911	13,402	13,363	13,216	11,091	6,532	6,216	5,616	5,251	神奈川
新潟	-4,550	-4,544	-4,701	-4,765	-4,701	-5,128	-5,304	-5,294	-4,844	-4,745	-4,272	-4,460	-4,030	-3,924	-3,476	-3,513	新潟
富山	-2,864	-2,828	-2,697	-2,505	-2,518	-2,333	-2,532	-2,473	-2,249	-2,166	-2,189	-2,117	-2,380	-2,227	-2,215	-2,140	富山
石川	287	263	24	211	471	453	-6	347	188	473	300	602	692	499	433	461	石川
福井	-1,818	-1,740	-2,106	-1,916	-1,911	-2,085	-2,143	-2,147	-2,036	-1,893	-1,881	-1,871	-1,664	-1,505	-1,674	-1,532	福井
山梨	-411	-468	-552	-566	-394	-516	-623	-641	-606	-820	-769	-664	-966	-922	-638	-661	山梨
長野	-5,906	-5,982	-5,962	-5,784	-5,980	-6,057	-6,385	-6,428	-6,179	-6,230	-6,416	-6,109	-5,993	-5,994	-5,652	-5,698	長野
岐阜	-5,577	-5,704	-5,300	-5,580	-5,553	-5,287	-5,490	-5,569	-5,275	-5,047	-5,145	-4,625	-5,056	-4,998	-4,974	-4,684	岐阜
静岡	-10,171	-10,492	-9,986	-9,401	-9,750	-10,252	-10,543	-9,937	-9,815	-10,016	-9,345	-9,648	-9,524	-8,890	-9,294	-8,890	静岡
愛知	6,009	5,336	4,912	5,177	5,930	5,426	5,824	5,831	5,776	5,726	4,424	4,692	4,083	4,156	3,803	愛知	
三重	-5,313	-5,519	-5,301	-5,186	-5,372	-5,266	-5,498	-5,079	-5,070	-5,255	-5,186	-5,230	-5,144	-4,995	-4,830	-4,821	三重
滋賀	179	-42	1,091	1,315	1,123	1,705	982	1,284	868	840	1,264	1,150	990	1,392	580	412	滋賀
京都	17,428	17,245	16,772	17,014	17,656	18,072	17,827	17,978	17,730	18,034	18,325	18,137	18,673	18,496	18,099	17,920	京都
大阪	9,455	9,143	8,692	8,699	8,574	8,453	9,431	8,473	7,789	7,810	6,630	6,849	6,816	5,209	5,997	6,317	大阪
兵庫	-2,984	-1,528	-2,335	-2,466	-2,270	-1,375	-1,280	-1,567	-676	-1,338	-1,235	-835	-1,793	-2,343	-2,262	-1,760	兵庫
奈良	-2,215	-2,461	-2,307	-1,837	-2,089	-2,153	-2,107	-2,254	-2,366	-2,659	-2,541	-2,622	-2,884	-2,889	-3,015	-3,046	奈良
和歌山	-3,493	-3,447	-3,522	-3,264	-3,319	-3,280	-3,295	-3,099	-3,100	-3,105	-2,938	-2,797	-2,859	-2,853	-2,674	-2,712	和歌山
鳥取	-1,072	-1,047	-1,168	-1,042	-1,134	-1,184	-1,158	-1,080	-1,087	-1,120	-950	-746	-862	-558	-609	-608	鳥取
島根	-1,760	-1,738	-1,692	-1,622	-1,733	-1,672	-1,595	-1,489	-1,490	-1,540	-1,312	-1,390	-1,216	-1,291	-1,175	-1,133	島根
岡山	-1,340	-928	-849	-1,107	-748	-1,149	-641	-689	-553	-330	-205	254	245	229	176	221	岡山
広島	-2,473	-1,787	-1,676	-1,897	-1,971	-2,112	-2,534	-2,488	-2,019	-1,750	-1,685	-1,893	-1,711	-1,426	-1,460	-1,484	広島
山口	-2,232	-1,877	-2,034	-1,826	-1,760	-1,738	-1,608	-1,404	-1,061	-974	-936	-976	-1,077	-1,001	-543	-569	山口
徳島	-1,162	-1,072	-923	-954	-685	-890	-1,202	-1,156	-1,074	-890	-945	-666	-612	-604	-454	-404	徳島
香川	-2,942	-2,885	-2,847	-2,617	-2,672	-2,674	-2,611	-2,643	-2,448	-2,516	-2,466	-2,225	-2,341	-2,423	-2,324	-2,384	香川
愛媛	-3,611	-3,834	-3,542	-3,365	-3,393	-3,212	-3,100	-3,067	-2,865	-2,924	-3,083	-2,714	-2,679	-2,497	-2,559	-2,857	愛媛
高知	-1,401	-1,348	-1,260	-1,286	-1,240	-1,236	-1,321	-1,165	-951	-933	-1,020	-909	-1,025	-850	-831	-743	高知
福岡	3,981	4,548	4,443	3,636	3,384	2,856	3,060	3,259	3,405	3,766	3,227	3,118	3,569	2,891	2,868	3,055	福岡
佐賀	-2,251	-2,219	-2,220	-2,226	-2,205	-2,167	-2,094	-1,995	-2,161	-2,083	-1,877	-1,664	-1,771	-1,698	-1,780	-1,788	佐賀
長崎	-2,635	-2,654	-2,191	-2,128	-2,417	-2,177	-2,173	-2,207	-2,030	-2,109	-2,002	-1,922	-1,894	-1,774	-1,654	-1,647	長崎
熊本	-951	-1,059	-918	-847	-904	-923	-981	-1,296	-1,235	-956	-1,344	-1,238	-1,255	-1,405	-1,323	-1,400	熊本
大分	-2,075	-1,955	-1,850	-1,507	-1,507	-1,257	-1,290	-1,298	-1,539	-1,336	-1,403	-1,294	-1,392	-1,250	-1,280	-1,101	大分
宮崎	-2,284	-2,188	-1,979	-2,101	-2,140	-2,260	-2,099	-2,003	-2,115	-2,099	-2,050	-1,875	-1,933	-1,941	-1,800	-2,016	宮崎
鹿児島	-2,899	-2,584	-2,407	-2,483	-2,244	-2,720	-2,737	-2,833	-3,007	-2,734	-2,741	-2,651	-2,651	-2,452	-2,420	-2,445	鹿児島
沖縄	-1,502	-1,447	-1,610	-1,705	-1,658	-1,693	-1,651	-1,707	-1,838	-1,686	-1,637	-1,613	-1,791	-1,922	-2,191	-1,822	沖縄

※自宅から県外に通っているケースも「流出」に含まれている(必ずしも「転居」というわけではない)。

この表は、他県から「入ってくる方が多いのか」「出ていく方が多いのか」を比べたもの。

28年の流入超過は都市部のわずかに10都府県のみ。それ以外の37道県は毎年、数千人規模で流出超過を繰り返している。「都市部の一人勝ち」の状況がよくわかる。

この表では、自宅から他県に通学する場合も流出に含んでいる。そのため必ずしも「流出＝県外転居」というわけではない。それでも19歳にあたる若者が、かなりの規模で地方から出て行っているのは明らかだ。

2. 地元に残る学生は、どれくらいいるのか

大学進学における学生の県移動を考える場合、構成要素は大きく3つある。上記の「流出者」「流入者」、それと「地元進学者」だ。ここでは各県の地元進学率を見てみよう。

地元進学率は、全体的には上昇傾向だ。ただし人数規模が大きく、上昇している東京都や大阪府に引け張られがちで、個別に見ると下降している県も多い。

アップダウンの要因は、最も大きなものは「経済状況（悪くなれば上昇）」、「地元の大学数（増えれば上昇）」が挙げられる。しかしそれ以外にも「受験生の地元志向」や「保護者の意向」、「その年のセンター試験の結果」なども影響する。

推移の概況は、「かつては大学進学率のアップと地方での大学新增設を背景に上昇」→「平成21年、22年ごろは不況で上昇」→「それ以降は停滞ぎみ」といったところだ。

大学の新增設は、確にかつては地元進学率の上昇に多少なりとも貢献してきた。しかしすべての大学で健全な経営ができていないわけではない。いまや4割以上の私立大が定員割れを起こしている。大学が増えれば良いというわけではない。

18歳人口が減少の一途をたどる「2018年問題」を目前に控え、なおかつこのタイミングで定員増を行ってきた都市部の大学も多い。今後は都市部のブランド大が入りやすくなり、地方からの流出が増加、地方の地元進学率は下降する可能性がある。

●平成28年度 地元進学率ランキング(大学)

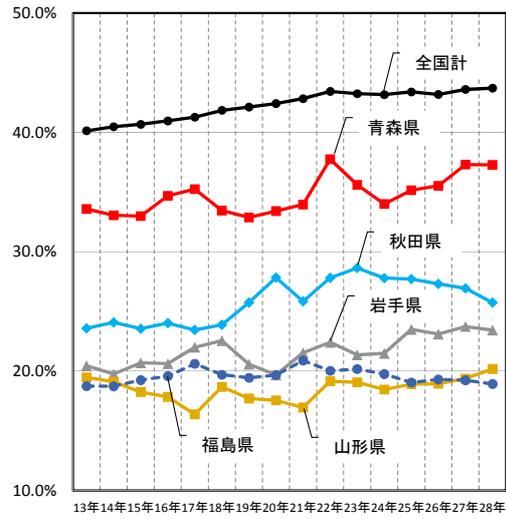
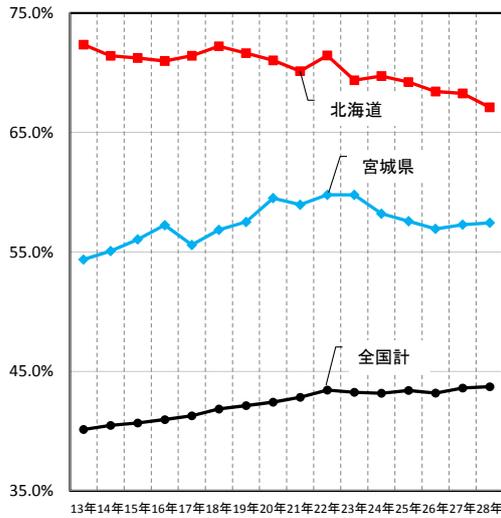
出身高校の所在地	地元進学率	地元大学進学者数									
1 愛知	71.4%	27,288	13 岡山	43.2%	3,813	25 静岡	27.9%	4,716	37 茨城	19.1%	2,852
2 北海道	67.1%	13,794	14 神奈川	40.5%	17,430	26 山梨	26.6%	1,312	38 福島	18.9%	1,451
3 東京	65.7%	49,926	15 徳島	37.5%	1,219	27 山口	26.6%	1,316	39 岐阜	18.9%	1,752
4 福岡	64.6%	14,741	16 青森	37.3%	1,845	28 宮崎	26.1%	1,159	40 富山	17.7%	800
5 宮城	57.4%	5,827	17 新潟	35.0%	3,307	29 岩手	25.7%	1,187	41 香川	17.6%	785
6 大阪	56.3%	26,461	18 長崎	33.5%	1,862	30 秋田	23.4%	844	42 長野	17.1%	1,568
7 沖縄	54.3%	3,311	19 千葉	32.5%	9,482	31 大分	23.1%	944	43 島根	15.9%	417
8 広島	52.5%	7,698	20 鹿児島	32.3%	1,932	32 栃木	22.0%	2,028	44 奈良	15.1%	1,197
9 京都	50.8%	7,879	21 埼玉	31.0%	10,495	33 高知	20.9%	577	45 佐賀	13.9%	492
10 兵庫	45.6%	13,323	22 愛媛	30.6%	1,924	34 滋賀	20.8%	1,435	46 鳥取	13.3%	286
11 熊本	45.0%	3,320	23 群馬	29.2%	2,685	35 三重	20.3%	1,618	47 和歌山	11.2%	490
12 石川	43.3%	2,353	24 福井	28.8%	1,100	36 山形	20.2%	856	計	43.7%	263,097

上位は毎年、都市部と北海道、沖縄県だ。1位・2位は愛知県と北海道で、これも毎年変わらない（入れ替わることはある）。

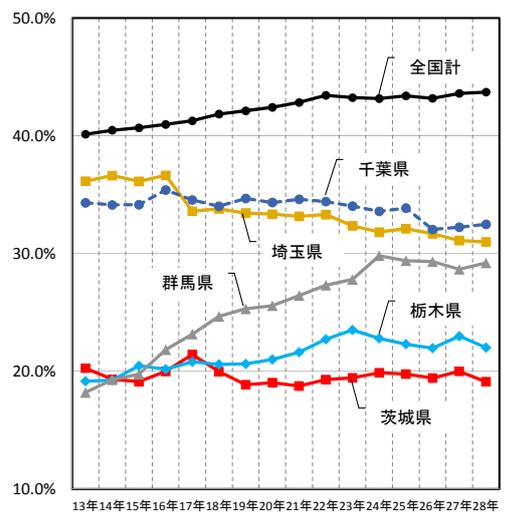
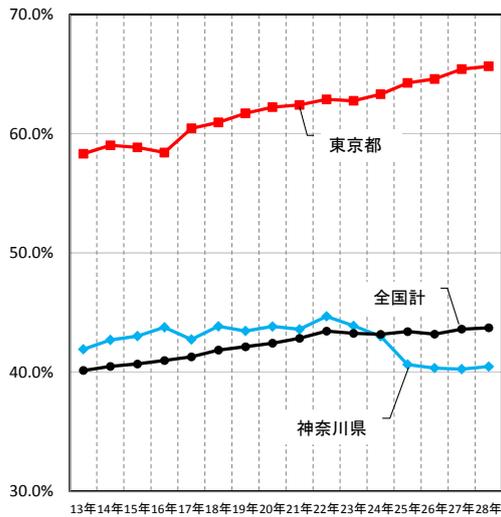
28年度は、地元進学率が5割を超えたのは、9位の京都府まで。残りの県はすべて「地元進学率5割未満＝大学進学者の半分以上が他県に流出」ということになる。

● 県別 地元進学率(大学) 推移

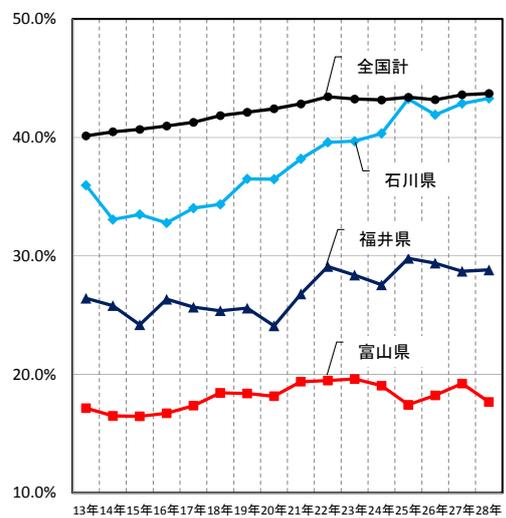
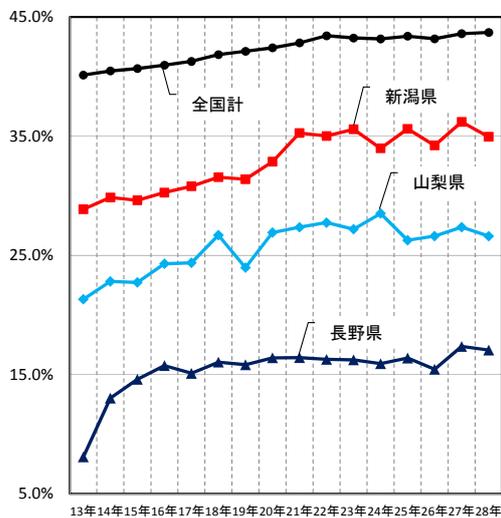
《北海道・東北地区》



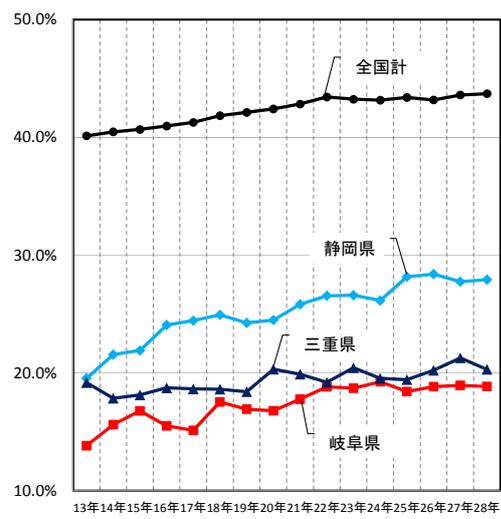
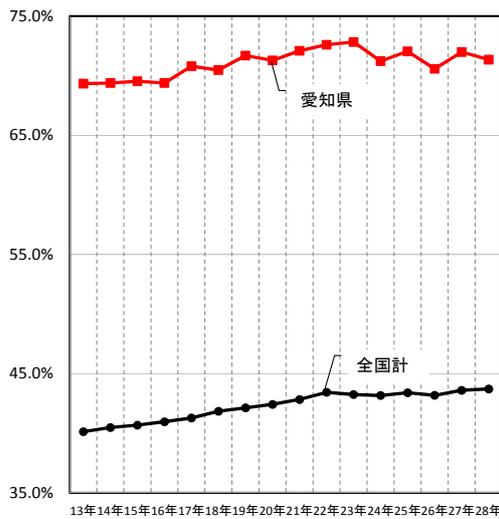
《関東地区》



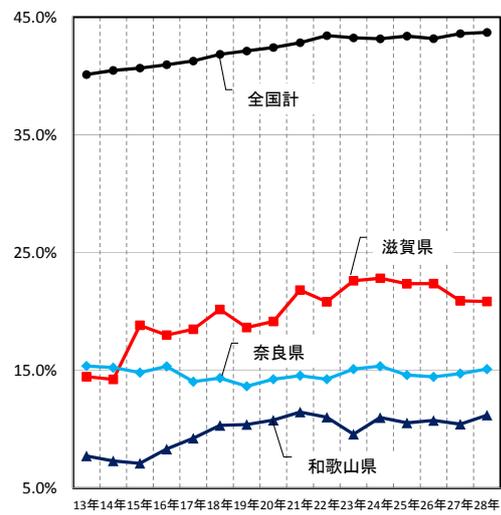
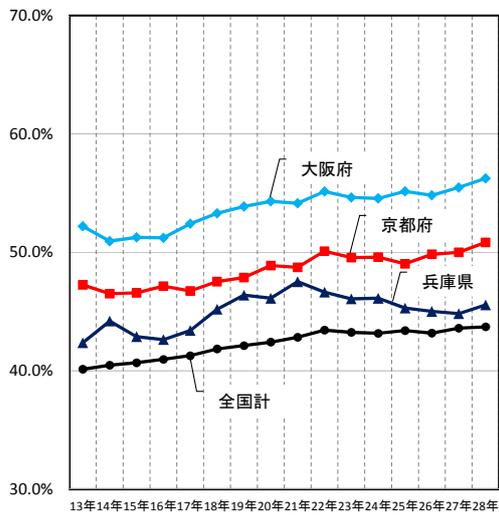
《甲信越・北陸地区》



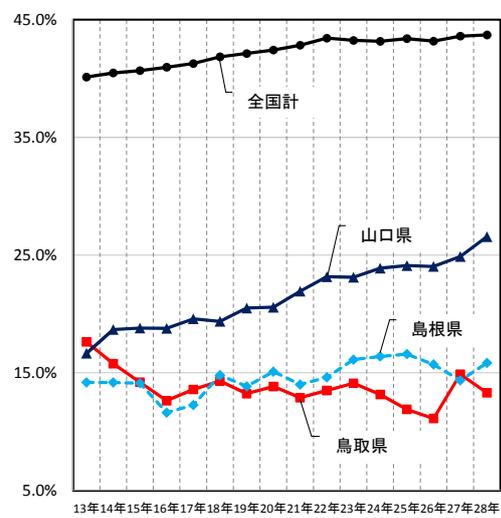
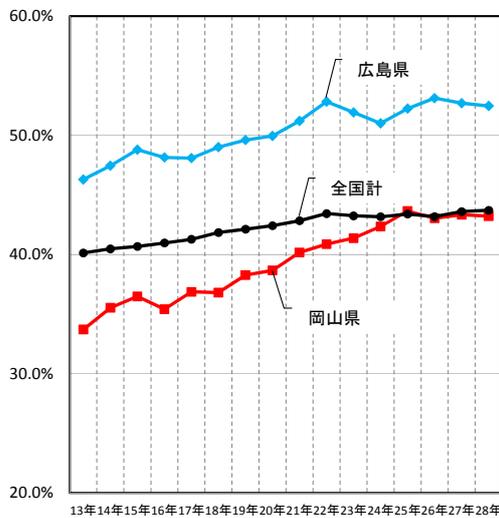
《東海地区》



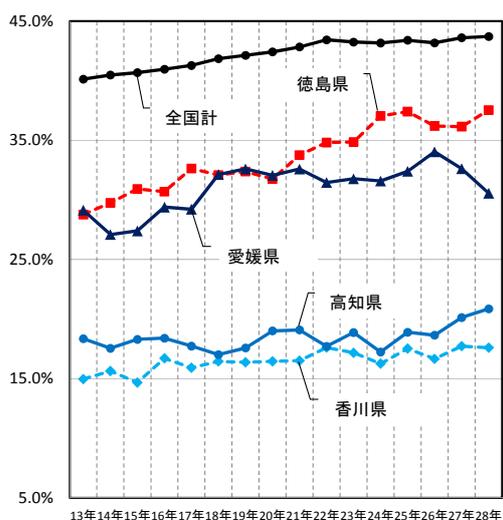
《関西地区》



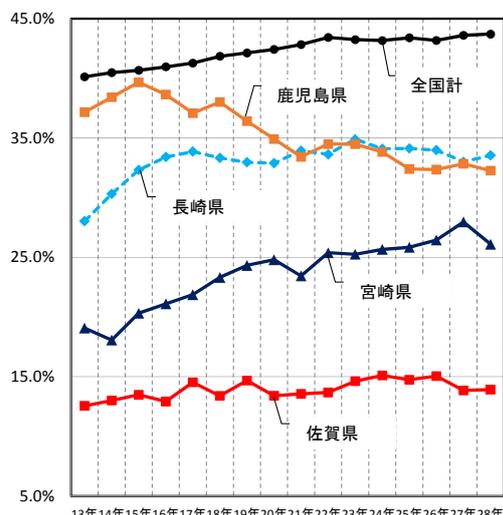
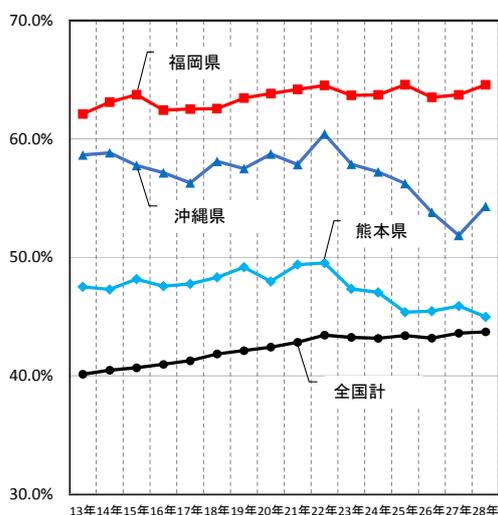
《中国地区》



《四国地区》



《九州・沖縄地区》



3. 東京の大学の「関東ローカル化」

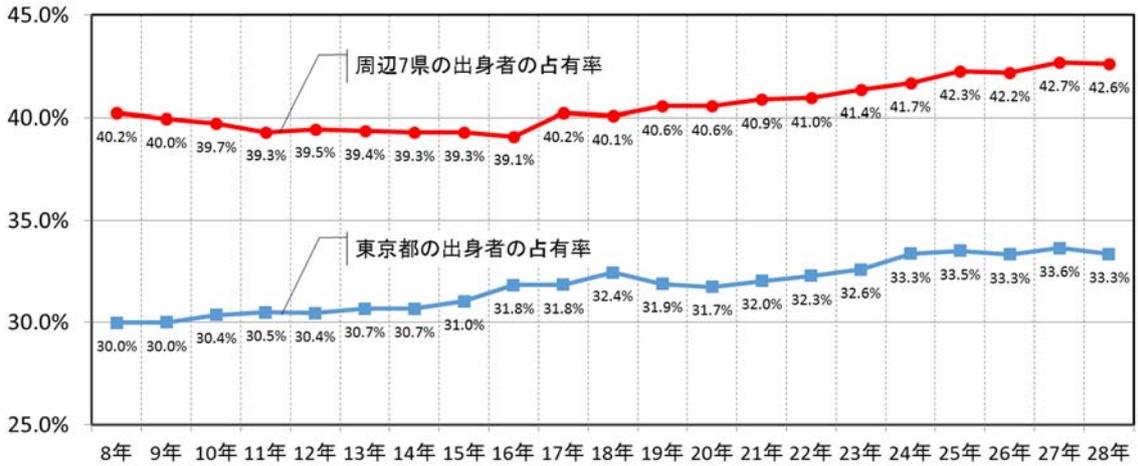
「都市部の一人勝ち」状況は間違いない。ただしその一方で、東京の大学の「関東ローカル化」と、地方からの「東京離れ」がじわりと進んでいることにも触れておこう。

- ・ 東京の圧倒的な流入者数を支えているのは関東から ⇒ 「関東ローカル化」
- ・ 東京への進学率は全国的に緩やかに下降 ⇒ 「東京離れ」

なお、以下の2点のグラフでは「周辺7県＝茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県、山梨県」。東京都を含めて便宜上、「関東」として扱う。

●「関東ローカル化」現象

《東京の大学の入学者占有率》



上のグラフは、東京の大学の入学者を出身地別に集計したもの。20年前（平成8年）は、「関東（周辺7県+東京都）出身者=約70%」だったのが、28年は約76%まで上昇。東京の大学は4人に3人が関東出身となる。これが東京の大学の「関東ローカル化」だ。

しかし、だからと言って、地方からの東京人気は低下しているとは言いきれない。上記のグラフは東京の大学の定員拡大を背景に、「地方からも増えているが、関東の増加がそれを上回った」だけなのかもしれない。そこで、「地方→東京の大学」の進学率を見てみよう。

●「東京離れ」現象

《関東以外から東京の大学への進学率》



上のグラフは、「関東」以外の県の大学進学者総数のうち、東京の大学に進学した者の割合を示したものだ。緩やかだが、「関東」以外から東京への進学率は下降傾向にある。平成12年と28年を比べると、「進学率=0.8ポイントダウン（9.0%→8.2%）」、「進学者=3,800人減（3.5万人→3.1万人）」となる。

「関東ローカル化」も「東京離れ」も、グラフを見る限り劇的な変化ではない。「緩やかに進行」という表現が妥当だろう。しかしこれは全体的にならした数値であり、大学・高校によって実情は異なる。特に、上位の大学・高校であれば、この現象がより強く表れているかもしれない。

●関連記事

「首都圏での志願者が7割超！ ー志願者数10万人超え大学の悩みー」（7月8日掲載）

http://eic.obunsha.co.jp/pdf/educational_info/2016/0708_1.pdf



《まとめ》

- ・大学進学時の県別流出入では、完全に「都市部の一人勝ち」。
- ・地元進学率は、全体的に上昇傾向。近年は停滞気味。大半の県が5割満たず。
- ・「東京」という巨大台風は大きくなり続けているかということ、そうではない。「関東ローカル化」と「東京離れ」が緩やかに進行。

本稿では「地方創生と人口減少、大学進学」をテーマに、県別の学生の流出入について分析を行なった。

都市部への進学自体は「悪」ではない。つい10年前であれば何の問題もなかったはずだ。しかし特に地方での人口減少が深刻化する今、大学進学時の若者の流出は、直接的に影響する。進学時に出て行くということは、就職時を含め、その後も戻ってこない可能性を多分に含んでいる。まさに人口流出の最大の契機と言えるだろう。

地域創生を考えるにあたって、各地域は「大学進学時における若者の流出」を課題として明確に捉えなければならない。